

## WK CCH<sup>®</sup> Tagetik事例

## U B E 株式会社

# UBE

### お客様名

U B E 株式会社: UBE Corporation

### 業種

化学業界、化学品製造

### CCH Tagetik の利用分野

- ・ 予算編成
- ・ 業績管理
- ・ データドリブン経営

### 会社概要

- ・ 化学品など幅広い分野でグローバルに事業を展開する日本の総合化学メーカー
- ・ 1942年3月
- ・ 従業員7,882名 (2024年3月末)

### 要件

- ・ データの一元管理と標準化
- ・ 業務効率の向上
- ・ 属人化の防止

「CCH Tagetikの導入により、損益計算書の作成にかかる期間を4分の1に短縮できる未来を描いております。現場の負担が軽減できるとともに精度向上も見込めると考えています。」

U B E 株式会社 DX推進室 合屋 沙耶様 (写真右)



写真左から  
U B E 株式会社 DX推進室 主席部員 八木 健治様  
U B E 株式会社 DX推進室 合屋 沙耶様

### 課題

U B E 株式会社(以下 U B E)は「2030年までにデータドリブン経営を実現する」という目標を掲げていましたが、予算編成業務において複数の深刻な課題を抱えていました。

第一に、予算管理システムとExcelを併用する運用形態により、業績管理データの一元管理ができておらず、業務効率が著しく低下していました。また、製品別の費用配賦処理が複雑で、部署ごとに異なる配賦ロジックが存在するなど、入力ルールの属人化が起きていました。

また、年度分の予算を作成する基本予算編成においては、関連工場での生産計画や原価計算に約1か月、データ集約と損益計算書作成にさらに1か月を要するなど、基本予算編成だけで3.5か月もの期間を要していました。加えて基本予算編成のために、前年12月中旬には翌年度の販売計画を提出する必要があり、見通しの精度が問題となっていました。

「タイムリーな情報提供と広く緻密な分析がされていない状況での経営判断では大きな損失を生み出してしまうリスクもあります。データに基づいたタイムリーな売上・利益の把握をし、PDCAサイクルを迅速に回すデータドリブン経営の実現を急がなければなりません。」

UBE 株式会社 DX推進室 主席部員 八木 健治様 (写真左)

## 目的

経済情勢の変化が激しい昨今において、タイムリーな情報提供と広く緻密な分析がされていない状況での経営判断では大きなリスクを抱えることとなります。このような状況から、データドリブンな意思決定を可能にするソフトウェアの必要性が急務となりました。これを受け、UBE は以下の目的を定めました。

1. **データドリブン経営の実現に向けたデータ基盤の整備**:業績管理データの一元管理を実現し、予算編成から連結までの自動化を目指しました。関連工場のデータ集計や損益計算書作成にかかる期間の大幅な短縮を通じて、より精度の高い予算編成の実現も重要な目的としました。
2. **標準テンプレートを活用した属人化の防止**:テンプレートが標準で用意されている点を重視し、業務のブラックボックス化や属人化を防ぎ、スムーズな運用・引き継ぎができる環境整備を目指しました。
3. **グローバル展開を見据えた経営管理基盤の構築**:将来的なグループのグローバル展開を見据え、海外グループ企業の業績把握も可能な経営管理基盤の構築を視野に入れました。

## ソリューション

標準機能による一貫性の確保とグローバル展開の基盤構築

UBE は、CCH Tagetikの予算編成・計画・予測ソリューションを以下の理由で選択しました。

- **データの一元管理**:  
従来Excelで行っていたデータ入力・集計作業をCCH Tagetik上で自動化しました。
- **標準予算編成テンプレート**:  
CCH Tagetikの標準機能をベースとしたシステムを構築し、カスタマイズを最小限に抑えました。テンプレートに業務を合わせることで、円滑な運用と知識移転を実現し、属人化を防止しています。
- **拡張性の高いプラットフォーム**:  
CCH Tagetikは複雑な企業組織や事業拡大に対応できるよう設計されています。包括的な業績管理プラットフォームとして、決算、連結、報告、ESG、コンプライアンス、税務、分析まで容易に拡張可能です。UBE のグループ全体でのグローバル管理連結への拡大計画において、この拡張性は不可欠な要素でした。

## 効果と結果

- **データ集計から損益計算書作成までの期間を75%削減**  
CCH Tagetik導入により、損益計算書の作成期間を従来の約1か月から1週間程度まで短縮できる未来を描いています。これにより、基本予算編成における販売計画の提出時期を適切なタイミングまで後ろ倒しにすることが可能となり、予測精度の向上が期待されています。
- **標準機能をベースとしたシステム構築で属人化を防止**  
CCH Tagetikの標準機能をベースにシステムを構築し、部署ごとに異なっていた配賦ロジックを標準化しました。必要最小限の配賦基準を確立しながら、例外的なケースにも対応できる柔軟性を確保しています。
- **グローバル展開のための基盤構築**  
主力工場の海外増設が進む中、CCH Tagetikの活用により、1) 海外グループ企業の業績把握と、2) カーボンニュートラル対応などの将来的な経営環境の変化への対応が可能となり、データに基づく意思決定を実現できると期待しています。



「カーボンニュートラル実現への対応を考えると、国内ありきの従来のような会計処理が通用しづらくなってきます。**CCH Tagetik**のようなソリューションを活用しながらの経営へシフトすることが必要不可欠です。」

U B E 株式会社 DX推進室 主席部員 八木 健治様

U B E では、今回の予算編成業務のDXを第一歩と位置付けています。次期3か年計画では、予実分析機能や製品別の月次決算管理の実現を目指し、CCH Tagetikへの機能の段階的な搭載を進める構想です。

### CCH Tagetikの導入:

今回の経営管理システム導入に際しては、CCH Tagetikの販売パートナーである株式会社アバントがシステムの導入を担当しました。アバント社はCCH Tagetikに関する豊富な知識とノウハウを有しています。アバントは短期間でのPoCから本開発まで、丁寧かつスピーディーな対応を行いました。「アバントだからこそ、CCH Tagetikを活用したシステム化が実現した」と高い評価を得ています。アバントは、短期的な業務効率化から長期的な経営管理の高度化まで、段階的な改革を進めるU B E の目標実現に向けて、継続的に支援していきます。

### お客様について:

U B E 株式会社は「スペシャリティ化学」を事業の中核に据え、化学品や機械、建設資材など幅広い分野でグローバルに事業を展開。「地球環境と人々の健康、そして豊かな未来社会に貢献するスペシャリティ化学を中核とする企業」を目指し、2030年に向けてデジタルトランスフォーメーション(DX)を積極的に推進。専門部署「DX推進室」を中心に、データドリブン経営の実現に取り組んでいます。連結子会社52社を有し、グローバルな事業展開を加速させています。

### パートナー様について:

株式会社アバントは、経営管理システムのソフトウェア開発および、様々な他社製品の提供を通じてお客様の企業価値向上につながる経営DXを推進しています。これまで1,200社以上の導入実績を通じ、コンサルティング、構築、導入支援、運用・保守をワンストップで支援いたします。

「グループ経営管理」「連結会計」「事業管理」を軸として、経営とIT双方の視点から、経営情報・データの統合、分析、活用を支援し、データドリブン経営を実現します。



### ウォルターズ・クルワーについて:

**ウォルターズ・クルワー** (EURONEXT: WKL) は、医療、税務・会計、ガバナンス、リスク管理とコンプライアンス、法務・規制、経営管理・ESGの各分野における専門情報、ソフトウェアソリューションとサービスのグローバルリーダーです。深い専門知識とテクノロジー・サービスを組み合わせた専門的ソリューションを提供することで、お客様が日々重要な意思決定を行えるように支援しています。

ウォルターズ・クルワーは、2023年に56億ユーロの年間売上高を計上しました。同グループは180カ国以上の顧客にサービスを提供し、40カ国以上で事業を展開、全世界で約2万1400人を雇用しています。本社はオランダのアルフェン・アン・デン・レインにあります。

CCH Tagetik詳細: <https://www.wolterskluwer.com/ja-jp/solutions/cch-tagetik>

LinkedIn: <https://www.linkedin.com/company/tagetik-japan>